

立憲民主党 さっぽろNEWS



提案説明を行う秋元市長

札幌市議会第3回定例会【開会】

25年度決算案など提出

札幌市議会第3回定例会が9月24日開会し、秋元克広市長は2025年度各会計決算認定案や、2億1200万円を追加する26年度一般会計補正予算案など38議案を提出した。秋元市長は提案説明で「残された任期においても、先人たちが築いた魅力ある札幌のまちを、将来にわたり持続可能な形で引き継いでいけるよう市政運営にまい進する」と語った。

25年度一般会計決算は、歳入が前年度比1.8%増の1兆2623億円、歳出が同1.6%増の1兆2502億円。繰越財源81億円を差し引いた実質収支は40億円の黒字で、うち20億円を財政調整基金に積み立てた。

一方、同基金の25年度の取り崩し額は過去最大の81億円に上り、25年度末の基金残高は224億円となった。市は26年度に105億円を取り崩す予定。その場合、26年度末の基金残高は119億円を見込むが、今後の補正予算編成などを踏まえると、市の中期計画「アクションプラン2023」で最低限維持すると定めた100億円を下回る可能性もあるとしている。

秋元市長は、市財政を取り巻く環境は厳しい状況が続いていると指摘。内部経費の徹底的な見直しと節減に加え、事業の選択と集中に取り組んでいくと話した。

子ども医療費助成 所得制限を一部撤廃へ

補正予算案には、子ども医療費助成の所得制限を一部撤廃するためのシステム改修費（限度額6100万円）の債務負担行為を設定した。道の補助基準見直しを受け、市は27年8月から未就学児の通院・入院と小学生の入院にかかる所得制限を撤廃する方針で、関連条例改正案も提出した。

世界自殺予防デー

一人で悩まず相談を

「世界自殺予防デー」の9月10日、日本産業カウンセラー協会北海道支部は連合北海道と協力し、働く人の電話・SNS相談室を周知する街頭啓発を札幌駅前通（南1西3）で実施した。民主市民連合の森基誉則市議（厚別区）、篠原すみれ市議（白石区）、定森光市議（西区）も参加し、「一人で悩みを抱え込まず相談してほしい」と訴えた。

2025年の自殺者数は前年比1132人減の1万9188人（男性1万3176人、女性6012人）となり、統計開始以来初めて2万人を下回った。一方、小中高生は同9人増の538人（小学生10人、中学生172人、高校生356人）



相談窓口の利用を呼びかける市議ら

で過去最多となった。

街頭で市議らは、「全体の自殺者数が減ったとはいえ、日々50人を超える尊い命が失われている。社会全体で孤立を防ぎ、命を支える取り組みを広げていくことが重要だ」と述べ、相談窓口の利用や周囲の見守りを呼びかけた。

札幌駅北口広場 28年度から再整備 安全性・快適性を向上

札幌市議会の新たな都心空間調査特別委員会が8月31日開かれ、市は北海道新幹線札幌延伸工事に伴い、一部施設が撤去されている札幌駅北口駅前広場の再整備事業の概要を報告した。同広場は新幹線の11番ホーム増設に伴い面積を縮小しており、市は2027年度のJR駅舎工事完了後、28～29年度に再整備を実施する。交通機能の向上に加え、撤去された施設の復旧に合わせて利用者の安全性や快適性を確保する方針で、概算事業費は約20億円を見込む。

計画では、駅出入口から広場内の各施設へ向かう東西の歩行者動線に雨雪をしのぐ上屋を新設する。また、西側改札口からタクシー乗り場へのスロープ増設や、障がい者用乗降スペースの確保など歩道のバリアフリー化も推進。広場北西部に歩道を新設し、従来の噴水があった中央部は多用途なオープンスペースに改修する。

上屋の軒天には北海道の自然をイメージした木調ルーバーを配置し、舗装材には桜御影石を基調としたデザインを採用するなど、駅舎と調和した景観を目指す。

誰にとっても安全な歩行空間に

質疑で民主市民連合の定森光市議（西区）は、駅舎拡張に伴いアトリウム付近の通路幅が約4メートルに狭まる点を取り上げ、「安全にすれ違い、移動できる空間を確保することが必要」と指摘。通路幅確保に向けた検討経緯をたどした。

市は、アトリウム減築による通路幅の確保は技術的には可能としつつも、地下駐車場の躯体について大規模な補強が必要となるほか、悪天候時の待合スペースの喪失や避難計画上の懸念、回遊性の低下といった問題があると説明。4メートルの幅でも新幹線開業後の通行量を十分まかなえるため、多額の費用をかけて減築する効果は小さいとし、通路側にあるアトリウムの柱の仕上げ変更による拡幅の検討に加え、階段・スロープの増設に向けた設計を進めていると答えた。

定森市議はまた、積雪寒冷地であることを踏まえ、上屋による雨雪や風への対策を十分に講じるよう要望。さらに、外国人観光客や認知症の人、障がい者にも配慮した分かりやすい案内サインの設置を求めた。

これに対し市は、上屋についてJRをはじめとする関係機関との協議や景観専門家の意見も踏まえ、駅舎と



質問に立つ定森市議

調和するデザイン案を取りまとめたと報告。案内サインについても周辺施設との一貫性を確保して分かりやすく誘導することが重要だと述べ、駅周辺の関係者と連携してデザインの検討を進めると答弁した。

北5西1・西2再開発は段階整備

同委員会では、「北5西1・西2地区市街地再開発事業」の見直し計画についても市から報告があった。

工事費高騰を受け、街区ごとに段階的に整備する方針で、2つの建物を連絡デッキで接続する。先行する西2丁目街区（地上11階、地下2階、高さ約80メートル）は30年度、西1丁目街区（地上34階、地下4階、高さ約230メートル）は34年度の竣工を目指す。

西1丁目街区は高層部の国際水準ホテルを維持する一方、中層階のホテル整備を取りやめ、商業機能も縮小する。西2丁目街区ではバスターミナルを先行運用し、南口周辺に設置している仮設バス乗降場を可能な限り解消する。

総事業費は両街区合わせて4000億円超を想定。市費負担分は400億～500億円程度を見込むが、市は「現時点での概算であり、事業内容の精査や国との協議、事業者によるコスト縮減の工夫などを進めていく」と述べた。



新たな都心空間調特の中村たけし委員長